



特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

里山だより

2005年7月 初夏号 24号



特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

〒518-0762 三重県名張市上三谷268番地の1

TEL 0595-64-0051

fax 0595-63-4314

HP <http://www.e-net.or.jp/user/ecoakame/>

新年度の方針承認 10周年に向けて協力

－第8回定期総会成立 05年度の方針・予算承認－

6月12日エコリゾート赤目の森で、特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会の定期総会が開かれ、無事に成立し2004年度の活動と決算が承認され、2005年度の活動方針、予算案も承認されました。特に来年創立10周年を迎える事に関して、記念すべき企画を成功させていこうということが確認されました。

会議の前に恒例となりました記念講演には、三重県庁から生活部NPO室の若林千枝子室長においでいただき、これまでのNPO室の取組みとこれからのNPOを巡る方向性などの話を聞く事ができました。その中では、赤目の里山を育てる会のNPO法人の申請時に第1号の申請をするために、朝早くから県事務所を訪れたことなどのエピソードが紹介されて、笑いを誘っていました。

定期総会は、新しい法人となって8回目を迎えることになりました。会員数153名で過半数は77名で、出席84名（うち委任状73通出席11名）の出席を得ることができて、会議は成立いたしました。会議では、定款に則り、議長や議事録署名人などが選任され、総会承認が必要な会の活動報告と決算、新年度の活動方針案と予算案がそれぞれ審議されました。

2004年度の活動報告と決算報告では、昨年末に起こった理事の大量辞任と新理事の就任の経緯について事務局長が改めて報告し、会全体の中で「介護事業」に対する意思疎通が充分でなかったことや、赤目の里山を育てる会に寄せる思いが個別に違うところを今後どのようにまとめていくのかという点が課題だったということが出されました。

また、そのような結果として、広報活動の不十分さや助成金事業や受託事業の取組みが少なかった点などが上げられ、新年度へ向けての教訓にすることができました。また、小田監事からは、活動報告・決算書の監査の報告がされて、いずれも適法に処理されていることが確認されました。このような中で、採決が行われて全員一致で活動報告・決算とも承認されました。

また、2005年度の活動方針案・予算案につきましても、来年の2月18日が育てる会創立10周年を迎えることになり、それにふさわしい活動を展開することを中心とした方針が提起されて議論となりました。また、『全国雑木林会議』の誘致もすすめて行くことも出されました。審議の中では『10周年を記念するイベントでは『能』をトラストの舞台で舞ってもらうことがふさわしい』などの意見がされました。そして、10年一区切りで、新しい里山ファンを増やすために、基本的な『自然観察会』などを開催するとともに、地元企業や行政との協働事業の推進を進めていくことなどが議論されて、採決の結果、全員一致で方針案と予算案が承認されることになりました。

会議の後には、里山の散策を全員で行うとともに、この春に導入された『ペレタイザー』の試運転が行われて、みんなでその性能と稼動状況を見学することができました。

総会に先立ち、第2回の理事会が午前中に行われました。理事会では、ITを使って議案書の中味の審議をしてきたのを再度確認するとともに、10周年にふさわしい企画や内容などが議論されました。5月あたりに行うとともに、全国的な大会の誘致『全国雑木林大会』を進めていくことも確認しました。また、トラスト地の獲得などの課題で、『遺言信託』についての調査やそれを実現するための方法などを検討していくことが議論されました。デイサービス事業との関連では日常的な可能性を秘めていることであり、また慎重な扱いをする必要があることなど、今後活かしていくことを確認しました。

助成金応募情報 (2005年4月～6月)

- ・環境コミュニティービジネス事業 450万円 不採択
- ・名張市市民活動実践事業 2件 60万円 採択 実行中
- ・国土緑化推進機構 温暖化防止事業 30万円 採択
- ・国土緑化推進機構耕作放置地の植林 200万円 審査中
- ・国土緑化推進機構環境学習地の研究 200万円 審査中
- ・ファイザー製薬こころとからだのケア 250万円 審査中

4月29日みどりの日(特)赤目の里山を育てる会が 自然環境功労者 環境大臣表彰を受賞!

— 7月22日 東京で祝賀会開催 参加者募集 —

4月29日 東京厚生年金会館で、環境省主催のみどりの日自然環境功労者 環境大臣表彰の受賞式が行われ、見事(特)赤目の里山を育てる会が同賞を受賞することができました。功績の概要としては、ナショナル・トラストによる買い取り地の保全管理、カワバタモロコ(絶滅危惧IB類)の保護増殖、子どもたちを対象とした環境教育等を実施してきたことが認められたということです。

受賞式には、吉森理事長、伊井野事務局長 吉田理事の三人が出席しました。全国から沢山の環境団体や個人が集まり、表彰を受けていました。受賞式後には、懇談会が行われて、全国で頑張っている人たちと親しく交流することができました。また、その後は東京在住の野島理事が駆けつけてくれて、東京の六本木ヒルズなどを見学することができました。

また、(社)日本ナショナル・トラスト協会の会長などが呼びかけてこの受賞の祝賀会を開催していただく運びとなりました。7月22日午後7時から東京本郷の学士会別館で参加費5000円で参加者を募集しています。参加の申し込みは、育てる会事務局でも受け付けますので、どしどしご参加いただきますようご案内いたします。



受賞する吉森理事長



2005年4月～2005年6月

赤目の里山を育てる会活動記録



● 4月29日みどりの日 自然環境功労者環境大臣表彰受賞

絶滅危惧種1B類のカワバタモロコの生息環境が残されていること。地元の小学校の環境教育のフィールドとして里山を活用して実践してきたことを評価されました。東京厚生年金会館にて授賞式が行われました。



● 5月29日 里山総合講座開講式

午前中は、これまでの赤目の里山の取り組みをパワーポイントを使って説明。「これからの里山に何を求めるか？」の講義を事務局長の伊井野氏が行いました。午後からは、里山保全リーダー養成講座・里山レディーズ講座の受講生にてトムソーヤ広場の草刈を乗用の草刈機で行い、広範囲を短時間で綺麗にさせていただきました。写真のように女性でも楽に運転でき草刈が遊園地のゴーカートに乗った気分のできるなんて画期的ですね。これからの草刈が楽しくなりそうです。



受講生の方による草刈

<この講座は名張市公益市民活動実践事業が採択されました。>

● 6月24日・25日

国際ワークキャンプ<週末ワークキャンプ>

一泊2日の週末ワークキャンプでトンボ池の周辺の整備、草刈、エコリゾート周辺のササユリが咲いている斜面の草刈をしていただきました。梅雨とはいえ、晴れ間続きで暑い2日間となりました。次回、夏のワークキャンプのリーダーも参加して、2日間でしたが充実したワークだったのでないでしょうか？参加者のみなさんお疲れ様でした。



- 赤目の里山にペレタイザー導入
エコリゾート赤目の森のレストランに
木質バイオマスを燃料としたペレットストーブが
設置してあります。その燃料を作る機械「ペレタイ
ザー」が導入されました。これは県が里地里山保全
認定団体へ支援する補助金によって実行されたもの
です。
製材所から出る「おがくず」や伐採された木を細か
く砕いたものをペレットにし、ストーブの燃料とな
ります。今年の冬は赤目産ペレットで暖まろうか
な？

お知らせ 日本一小さな木質ペレタイザー 稼動見学会と木質バイオマス講演会

- 日時:2005年8月28日(日)午前10:00~
- 場所:エコリゾート赤目の森(三重県名張市上三谷268-1)
- 参加費:お一人様 3000円(税込軽食付)
宿泊の場合1泊3食 11000円(税込)

※ 宿泊は事務局がある環境保全型ペンションエコリゾート赤目の森です。
前日は前夜祭の予定で「夜なべ談義」をと考えております。

※ 近鉄赤目口駅より無料送迎あり



～ 内 容 ～

- ・ 講演:「森林から世界が変わる!～木質バイオマスの昨日、今日、あした」
岩手・木質バイオマス研究会会長 金沢 滋氏
- ・ ペレタイザー稼動実験説明 株式会社アースエンジニアリング
エンジニア 東 寛氏
- ・ ペレットストーブの紹介説明 (イタリア製テルモロッシ 岩手製ペレットストーブ
クラフトマンストーブの燃焼実験など)
- ・ 昼食(軽食)懇親会
- ・ 乗用草刈車 4WD2WD の最新各車試乗会(最高に素晴らしいです)
- ・ 赤目の里山の自然散策

主催: 特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

後援: 三重県 名張市 (社)日本ナショナルトラスト協会 岩手・木質バイオマス研究会
(株)アースエンジニアリング < 順不同 予定 >

デイサービス赤目の森の様子



4月 大野寺お花見。今年は桜の開花が遅かったが咲いている期間が長かったので様々なところへお花見にいきました。



お天気の良い日は、こもればテラスで昼食会。新鮮な空気と新緑の中でお食事をすると、食欲がでていつもよりおいしく感じられる。まるでピクニックにきたみたいとおおはしゃぎ・・・。



新緑の中で歓談するのもお話しが盛り上がり楽しいひと時です。みなさんの笑顔がステキです。



地域の神社の造宮の餅撒きにもいきま



5月 春の日帰り旅行

「琵琶湖ミシガンクルーズでお食事」

9名の参加で職員5名引率しました。

介護保険適用外で希望者の方のみの参加。普段、遠方へ出掛ける機会の少ない利用者の方へのサービスで行いました。

琵琶湖の景色を船上から見ながら食事をしました。3階デッキではジャズのショーをみながらクルージングしました。

90歳の女性のかたは、「まるで夢をみているようだ」といい所に連れてきてもらったと大感激。

《赤目の里山を育てる会 新任理事の紹介》

この3月の臨時総会で、就任された新しい理事を改めて、ご紹介をいたします。

新しい理事さんを今後ともどうぞ、よろしくお願いいたします。

雨森 孝悦さん（あめのもり たかよし）

1951年西宮市生まれ。現在は、奈良市に住みながら、日本福祉大学福祉経営学部で非営利組織論などを担当しています。これまで（財）日本国際交流センター、（財）とよなか国際交流協会などいくつかの非営利組織で、NGOの調査・支援、多文化共生の推進を行ってきました。今、関心があるのは、NPOの社会的役割を再確認すること、その際に社会開発という視点から見ていくことです。里山をいわば「心の故郷」としてたいせつに守りつつ、そのために活用するという発想がとても気に入っています。

湯川 清さん（ゆかわきよし）

山の仕事をやり始めて三年ほどになります。最初は四季折々に変化する山の姿に憧れて、こんな所で仕事が出来たら最高だな～、と思いつつ、また、子供に自慢できる仕事がしたい。そんな思いで始めました。森林組合の仕事は、切捨て間伐が主で、材を出して製材にすることは殆ど無い状態です。仕事をしながら何か心に虚しさが残る日々が続きました。そんな時に出会えたのが赤目の里山でした。赤目の森を早く昔の里山に取り戻すべく微力ながらこれからも、自分自身のため、家族のため、地域の人たちのため、世界人類のために力を注いで行きたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

佐野 憲一朗さん（さのけんいちろう）

東京工業大学工学部 開発システム工学科 在学中で、02年9月 国際ワークキャンプ名張に初めて参加して以来、毎年何度も赤目の里山保全に頑張ってきました。赤目の里山と関わった事で、この3年間僕は多くの事を学ばせて頂きました。このフィールドを守ることは、自然を守るという事以上に、文化を守る・人を育てるという意味合いの方が重要だと思っています。そのためには、会員だけが里山を保全し、利用するだけでは不十分で、今まで赤目を知らなかった人々に足を運んでもらう事が必要です。そのような思いから、これまでも、これからも、ワークキャンプや合宿等、多くの方が足を運んでくれる場にしていく事を目指していかなければならないと思います。

野島 省吾さん（のじましょうご）

東京工業大学 開発システム工学科土木コース在学中で、専攻である土木工学を学ぶ中で、環境について興味を持つ。特に講義では知ることの出来ない、政府や企業、学問的な立場からでなくNPOやボランティアの立場からの視点が欲しいと感じ、佐野君の紹介でNICEのワークキャンプ名張に去年の春から参加。その後去年の夏、今年の春と参加を重ねる。学生として、若者としての意見やものの見方が、何かに生かせればと思い、理事を引き受けさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

阿部 圭宏さん（あべよしひろ）

1958年 滋賀県生れ。市民活動コーディネーター。3年前に滋賀県庁を退職し、NPO法人市民熱人の理事長に就任。滋賀県内はもとより、全国的な市民活動の普及啓発に活躍。伊賀地方の自治体での講演活動も頻繁。「菜の花プロジェクト」で有名な滋賀環境生協の副理事長も兼ねる。

国際ワークキャンプ 週末キャンプ開かれる！(6月25.26日)

赤目の里山の保全活動には、現在では欠かせない存在となっている国際ワークキャンプナイスの若者たちです。今年も夏のキャンプは9月1日から15日までとなっています。これまでこのキャンプに関わった人の中から、もっと身近に気軽に参加できる1泊2日の週末キャンプを行ってはどうかという提案があり、この6月25、26日に実施することになりました。

当日は大阪や京都、奈良から途中参加も含めて7名プラス小中生2名で生活しワークすることになりました。この中でもキャンプは初めてという方もあり、それだけでも成果がありました。

初日はオリエンテーションとフィールドの見学で昼食となりましたが、デイサービスの利用者の方と一緒に。午後はトンボ池の草取りでした。3年4年放置すると陸地化するトンボ池を保全するためには、池の水草を抜き取る作業をしなければなりません。これが大変な作業なのですが、みんな黙々と頑張りました。夕食は自分たちではじめて炊いたお釜でのご飯を楽しみました。

次の日は、エコリゾートの笹百合の斜面の草取りで、特に熊笹の排除に汗を流しました。これまた藪漕ぎ同様に大変な作業でしたが、1時間毎に休憩を入れて三時間みんなで最後まで頑張ることができました。昼食のカレーが何と美味しかったこと。

最後の振り返りの時間では、貴重な体験ができたこと。初めて赤目にこれたこと。ご飯が美味しかったこと。などが感想として出され、機会があればまた、みんなで集まって頑張ることが確認されました。次回は8月27、28日に行くことが決まりました。

参加のみなさんお疲れ様でした。



草取りに精を出すキャンプの参加者たち

【赤目の里山を育てる会のメルマガの読者になってください】 現在253名様

赤目の里山を育てる会のホームページ <http://www.e-net.or.jp/user/ecoakame/>
このページで、メールマガジンを発行しております。読者登録をしていただけますと、無料で毎月、赤目の里山を育てる会 エコリゾート赤目の森の情報を受け取ることができます。ぜひ ご登録を

【新入会の皆様】(05年6月30日現在)

- ・ ****さん 鈴鹿市
- ・ ****さん 伊賀市

会員を募集しています。みなさんのご紹介をお待ちしております。

赤目の里山を育てる会の現状

個人会員 154名

賛助会員 14団体個人

みどりの募金累計金額 336万円

名張市の会員が増えていますが、都市住民の方々の退会と相殺されています。

厳しい社会を反映していると思います。

編集後記

3ヶ月に1回は『里山だより』の発行を頑張ろうと総会で議論をいたしました。05年度の会費の徴収と一緒に新しい会報をお送りすることが大切だと、定期総会の報告も兼ねて、新しい号を発行することができました。

みなさんからの原稿を募集いたします。何でも結構ですから、日頃の何か思うことを原稿にしてお送りください。今後ともよろしく願いいたします。 編集子